

藍住町東中富桜つつみ公園バーベキューエリア整備事業における町の考え方

要請内容① 莫大な費用

現時点で事業費として約 6500 万円が見込まれていますが、資材高騰や運営開始後の民間委託料などによる更なる費用も発生し、巨額の税金が未長く投入され続け町政を圧迫します。

本事業は、管理棟や炊事場、太陽光発電設備、車いす利用者向けのスロープなども設置し、公園の利活用の幅を広げることで、非常時にはテント避難所等として活用するなど、東中富桜つつみ公園をフェーズフリーな公園としてアップデートするものです。

特に、災害時には、様々な特性を持たれている方で一般の避難所での生活が困難な方などに向けて、高台にある芝生広場を活用したテント避難^{*}や公園駐車場を活用した車中泊避難、指定避難所まで距離のある祖母ヶ島地区の住民の皆さんや近隣の皆さんの一時避難など、これまで藍住町では対応することができなかった避難者等の多様なニーズに応えられる設備となります。

一方で、災害が発生していない平常時には、地方創生の拠点として管理棟や太陽光発電設備、炊事場等をバーベキュー等が利用できる設備として活用することにより、災害時のみ又は平常時のみにしか活用できない設備ではなくフェーズフリーな設備として有効活用していくことができますので、一概に収益性のみをもって整備するものではありません。

既存の公園内に整備することによりコスト削減を図っているところではありますが、最近の社会情勢を鑑みますと、資材高騰については否定できない状況となっております。引き続き、設備仕様等を検証しながら事業予算内に収まるよう努力してまいります。管理体制は検討中ではありますが、バーベキュー場としての営業日数は年間 140 日程度を見込んでいることから、運営費用が不必要に高額とならないよう経費等の削減に努めてまいります。

※テント避難とは・・・

周りの人の気配が気になって休めない、不安になる、環境の変化が苦手といった方にも、テントという空間を確保することによって、少しでも落ち着いた避難生活を送られるよう避難者本人やその保護者等に向けた多様なニーズへの対応・合理的配慮に基づいた避難方法の一つです。

要請内容② 本当に必要な事業に予算を

この事業は不要不急です。自治体の予算には限りがありますので、県内の他の自治体のように医療費の減額や学校給食費無償化など、町民にとって本当に必要な分野への予算づけを優先してください。

本事業は、災害対応機能の強化やまちのにぎわいづくりの一環として取り組む事業です。

災害時においては、近年、発生確率が高まっている南海トラフ地震などへの対応が求められており、多様化する避難者等のニーズにも応えるために、避難施設、避難方法の選択肢を確保しておく必要があります。特に、様々な特性を持たれているお子さんをお持ちのご家族からは、大勢がいる避難所への避難は躊躇されるとの声を聞いており、そういった中で、テント避難というパーソナルスペースを確保できるような避難施設の整備が求められています。

また、全国的に人口減少が加速し、藍住町でも人口が減少局面に転じつつある中、これまでのにぎわいを維持し続けるためにも、関係人口や交流人口の拡大といった地域の活性化に向けた取組を推進する必要があります。

いずれも待ったなしの喫緊に取り組むべき地域課題であり、本事業は、これら2面の課題解決に向けた事業であると考えています。

また、急速に宅地開発が進み、多くの住宅が増えてきた中で、自宅の庭でバーベキューをしているご家族をよく見かけますが、周辺に気を遣うことなくバーベキューができる場所を提供することが必要であるとも考えています。

なお、参考として、要望事項に例示していただいている給食費を無償にした場合について、令和4年度の中学校・小学校・幼稚園・認可保育所の保護者負担額は合わせて約2億3,400万円となっていることから、仮に給食費無償化を行った場合はその全額を町が毎年、負担することとなります。

要請内容③ 災害時の活動拠点にならない

町は災害時にバーベキューエリアを活動拠点とするとしていますが、公園の広さや立地を考えると、特に大規模災害の場合には実現不可能な案です。

東中富桜つつみ公園の芝生広場は盛土をしており、砂と間隙水による液状化が発生しにくく、また液状化が発生しても地中内に水抜きパイプが整備されているため大きな被害がでないのではないかと考えております。

そのため、芝生広場上において災害対応機能の強化を図ることによって、指定避難所におけるメインの屋内避難所ではなく、屋外のサテライト機能を持ったサブ避難所としての活用が可能になると考えております。災害直後は町民が一齐に避難を開始する中で、避難経路の道路状況に不確定要素があるため、混乱が起り得ることが想定されます。指定避難所まで距離のある祖母ヶ島地区や東中富桜つつみ公園の近隣の皆さんが一時的に身を寄せる場所を確保することが一つの方策であると考えており、一時避難所として約 1,000 名の収容が可能となります。

また、特に大規模災害時には、多くの方が避難所での避難生活を送ることが想定されています。中には、様々な特性をお持ちで避難所での共同生活が困難な方もいらっしゃるでしょうから、サブ避難所を設置することで、避難者やそのご家族の多様なニーズにも応えることができます。芝生広場にはテント避難所として約 200 名の収容が可能であると考えております。

発災時には、その災害の内容や規模によって対応が変わりますので、その災害に応じて適切な対応が取れるよう施設整備や備蓄品の確保等、災害対応機能の強化に努めてまいります。

要請内容④ パブリックコメントの多くが事業に反対

今年3月に町は事業の基本計画案への意見募集を行い結果を公表しましたが、否定的な意見が多数を占めます。

整備反対の立場からいただきましたご意見も、様々な課題が想定されることによる懸念からのご意見であると捉えております。ご指摘いただきました懸念事項等がクリアできるよう運営方針を検討してまいります。

なお、パブリックコメントに係る手続は、町の事業計画などを決定する前にその事業概要について事前に町民の皆さんに公表し、提出いただいた御意見などを参考に、より良いものに高めていこうとするものであり、計画実施についての是非を問うものではありません。

要請内容⑤ 町民の数少ない憩いの場である

町内には公園施設は数ヶ所しかありません。その中でも桜つつみ公園は、芝生広場、大型遊具、水辺、遊歩道、トイレなどを備え、特に利用者の子どもの大半の子どもたちにとって安全でのびのび遊べる唯一の公園です。この事業により飲酒トラブルや臭いなどの問題が懸念されます。町民の憩いの場を確保してください。

バーベキュー場としての営業時間中は管理人を配置することとしており、近隣住民や他の公園利用者への迷惑行為が行われないよう管理してまいります。また、バーベキューにおける煙やにおいについても、それらの発生を考慮した電気式のバーベキューグリルを導入することとしており、町が用意するバーベキューグリル以外の使用は禁止とします。

この度のバーベキューエリアの整備は、有効活用しづらかった傾斜地を平地として再整備することにより活用の幅を広げるものであり、これまで子どもたちが遊んでいた芝生広場の利用を妨げるものではありません。中央部の芝生広場と新たに整備する箇所の間には遊歩道もあり距離的に分断されることから、バーベキューエリア以外の公園利用者も従来どおり憩いの場としてご利用いただくことができると考えています。

また、現在、365日、何らかの目的を持つ公園として整備を進める上で、公園全体の見直しも始めています。公園をより魅力的なものとするため、今は流れが止まっている滝や遊具の修繕、撤去等についても年次計画の策定を進めているところであり、東中富桜つつみ公園が憩いの場所として今後も快適にご利用いただけるよう維持管理に努めてまいります。